

(社)日本原子力学会  
第38回倫理委員会議事要旨

日 時 H20.5.20(火)13:30~17:00  
場 所 日本原子力学会会議室  
出席者 北村、大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、辻、鳥飼、  
宮越、矢野(13名)

配布資料

- 資料 38 - 1 第 37 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 38 - 2 第 10 回「原子力に関する倫理研究会」開催(案)
- 資料 38 - 3 続 原子力を中心とした技術者の倫理ケースブックドラフト  
同補足 ケースブック作成に関する検討事項(案)
- 資料 38 - 4 (1) 2008 年秋の大会(9/4-6)企画セッション提案書  
(2) 不正・不適切な行為の再発防止の評価について  
(3) 再発防止評価タスク第 1 回会合議事録  
(4) 不正・不適切行為再発防止対策とその実行状況に関するアンケート(案)
- 資料 38 - 5 (1) 会計からの連絡事項  
(2) 平成 20 年度予算の支出 5%削減要請について  
(3) 予算承認願 技術倫理協議会への運営分担金の新たな払い込み  
(4) 倫理委員会：平成 19 年度活動実績、平成 20 年度活動計画  
(5) 平成 19 年度収支予算及び実績表
- 資料 38 - 6 平成 19 年度の倫理委員会からの事業報告案

議事

1. 資料 38 - 1 により前回議事要旨を確認した。
2. 杉本委員より資料 38 - 2 を用いて第 10 回「原子力に関する倫理研究会」開催案の紹介があった。今回の研究会は倫理委員の勉強の場とすることから聴衆を募らないで実施するが、理事には案内すること、内容は記録して発言者の了承を得た上で公開することを再確認した。外部の方の発表の全体タイトルや討論のテーマ等について、内容がよくわかるように見直すこととした。また講演者には倫理規程改訂に資したいという研究会の趣旨をていねいに説明するとともに、原子力学会の倫理規程をあらかじめ見ていただくことなどをお願いすることとした。
3. 作田委員より資料 38 - 3 および補足資料を用いて「続・技術者の倫理ケースブック」の作成方針の説明があった後、2つの事例について意見交換を行った。今後、残りのものも含め事例は全員でチェックするが、それぞれ責任担当も置くこととなり、作田委員から別途依頼することとした。担当副会長には推薦文等の執筆をお願いすることとした。今回は ISBN のナンバーは取得すること、ただし発行者は前回同様、学会ではなく倫理委員

会とすることを確認した。発行部数については各委員から販売見通しを作田委員に至急連絡することとした。その他、タイトル等についてもさらに検討することになり、意見は作田委員に集約することとした。

4 .小沢委員、鳥飼委員より資料 38 - 4 を用いて 2008 年秋の大会倫理委員会企画セッションの企画案「不正・不適切事例の再発防止策をどう見るか」の説明があった。不正・不適切な行為の再発防止の評価実施スケジュールの説明があり、各社にアンケートを実施することなどが紹介された。8 月末までには倫理委員会の評価をまとめ、秋の大会ではそれに対して各社からコメントをいただくという形でセッションを組むことを了承した。

5 . 谷委員より資料 38 - 5 を用いて会計関係の報告があった。予算の一律削減要請は倫理委員会としては釈然としない面もあるが、やむを得ないとして了承することとした。

6 .大場副委員長から資料 38 - 6 を用いて平成 19 年度の倫理委員会の事業報告案の説明があり、了承した。

7 . 倫理委員会のメンバー構成について意見交換を行った。産業界等では倫理への取り組み体制の整備が進んでいることから、現在まだ委員を出していない業界・企業にも参加を呼びかけること、大学関係では SR の研究を実施しているところなどへ呼びかけるとともに、倫理教育担当者で参加いただける方がいないか調査することとした。

8 . 次回は 7 月 11 日（金）の 9 時半から（後日 9 時 45 分からに変更）日本原子力研究開発機構青山分室で開催することとした。